工学教育と DEI，そして女子枠入試

北陸信越工学教育協会 会長
新潟大学 工学部長
鈴木 孝昌

近年，ダイバーシティ，エクイティ&インクルージョン（DEI）なる概念が急速に広まり，教育研究の分野，特に理工系分野では DEI に対応するための急速な変革が求められています．DEI が単なる流行や掛け声ではなく，停滞した社会を活性化するための処方箋であると見なされているためだと感じます．特に工学は社会に直接大きな影響を与える分野であり，その技術的進歩は我々の生活を大きく変える可能性を秘めているわけですが，現状，工学にかかわる分野では教育，研究，開発，製造等あらゆる分野が男性主体で動いています．この偏りが技術の進歩を停滞させ，工学の負の側面を増強させるものと考えられているわけです．このような状況の中，DEI が工学教育において重要である理由は，1）視点の多様性が革新的な新しいアイデアを生み出し，2）製品開発や社会課題の解決において斬新なアプローチをもたらすこと，また 3）性別，人種，文化，障がいなど，多様な経験や価値観を持つ学生，研究者，技術者らにより，工学の負の側面を取り除くことができるところにあります．この考え方は，生物が遺伝子を交配し，その多様性によって子孫を残す生き残り戦略に例えられることもあるようです．

工学系の学部では，もともと女子学生の比率が低く DEI を推進しようにも困難な状況でしたが，ここ数年女子枠入試を導入する工学系の学部が急速に増えてきました．当初抵抗があった女子枠入試ですが，現在では DEI を推進し，より多様で豊かな社会を実現するための重要なステップと捉えられています．

新潟大学工学部でも在学生，志願者ともに女性の割合が非常に少ない（約 5:1）状況でした．女性学生を増やそうと，高校訪問による積極的な PR，女性志願者のためのパンフレット作成・配布等様々な取り組みを行ってきましたが志願者は増加せず，結果として入学者が増加していないという状況であったため，今年度一つの学位プログラムで 5 名の女子枠を設け入試を実施しました．実施前は志願倍率が上がらないのではないかとの危惧もありましたが，結果的に多数の志願者が集まり女子枠導入が認知されたものと理解しています．来年度はさらに枠を全学位プログラムに拡大し，25 名定員で入試を実施する予定です．

女性が工学部への進学を躊躇する理由として在学生の男性比率が圧倒的に多く，周囲にロールモデルが少ないことが考えられます．また仮に工学部に興味を持っていても，男子学生が圧倒的に多い環境に対する不安やキャリアイメージを持てないことが心理的なハードルとなっていると考えられます．さらに，女性は能力的に文系分野に適しており，理系分野，特に工学系には向いていないといった誤った価値観が世の中に蔓延している状況や家庭内での役割分担も一因でしょう．「男女差別に厳しい背景の中」，「女子枠が男子に対する差別」ではないかとの意見もありますが，逆にこれまでが「女子に対する差別を生んでいた状況」であったとも考えられます．以上のような状況を踏まえ，女性が志願しやすい環境を整えることが重要であるとの考えに至った次第です．

女子枠入試のメリットはたくさんあります．まず志願者にとっては受験することへの心理的ハードルが下がります．学部にとっては女性志願者が増え，ひいては女性の入学者が増えることによって，多様な価値観がもたらされ，教育研究の現場に新たな視点や活力が生まれることが期待できます．また，カーボンニュートラル等に代表される SDGs に関連した分野や先端的情報技術等の分野で山積している課題を新たな視点，多様な観点で見極め，新しい社会価値の創造が行える技術者・研究者を育成して社会へ排出することが期待されます．もちろん女子枠入試はあくまでもその過渡的な支援手段であり，最終的な目標は性別に関わらずすべての学生が平等に学び，成長できる環境の確立です．来年度以降，女子枠入試を経て入学して来る学生をしっかり育て，工学部の中に多様な価値観をもたらしていくことが重要であると考えています．このような取り組みが，将来の技術者たちに多様な視点と豊かな創造力をもたらし，未来のより良い社会をつくるための礎となることを信じて止みません．